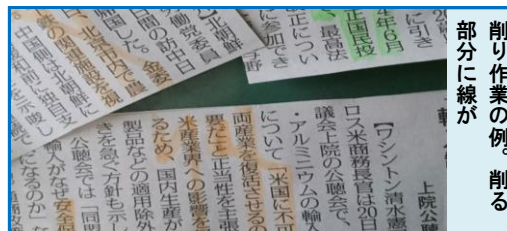


神は細部に宿る 削りの基本

■新編集講座 ウェブ版 第103号 2018/7/1

毎日新聞社 技術本部長（元・大阪本社編集制作センター室長） 三宅 直人

新聞紙面には物理的制約があります。新しいニュースが飛び込んできたら、それまで入っていた記事を短く削らないといけません。容量が事実上無限のネットに比べて不便なようですが、限られた時間で全てのニュースを把握できる利便性もあると思います。新聞紙面の特徴をお伝えするシリーズ5回目。今回は削りの基本を解説します。



【ロンドン〇山×太郎】欧州中央銀行（ECB）は2日、定例理事会を開き、ユーロ圏16カ国の最重要政策金利を現行の年1・5％から0・25％引き下げ、年1・25％とすることを決めた。3月にも利下げしており、1999年の欧州単一通貨「ユーロ」導入以来、2カ月連続で過去最低の金利水準を更新した。 トリシェ総裁は利下げの理由について「インフレ圧力の低下と非常に弱い経済活動」を挙げた。同時に次回の定例理事会で資金供給の拡大策を決め、措置の詳細を公表する考えを示した。 ECBは、金融危機が深刻化した昨年10月から利下げを開始し、今回で6回目。日銀は政策金利を年0・1％に引き下げ、米連邦準備制度理事会（FRB）は事実上のゼロ金利政策に移行しており、危機克服に向けた世界的な超低金利政策の流れが一段と強まった。 ユーロ圏では、景気の急速な悪化を受け、2月の失業率は前年同月比で1・3ポイント上昇の8・5％に悪化。一方、3月の消費者物価上昇率は前年同月比で0・6％とユーロ導入以来最低の水準に落ち込み、利下げの環境が整っていた。	背景（欧州経済）	背景（世界の金利）	補足説明
本論			

■「硬派」原稿は後ろから削る

上に掲げたのは、欧州経済に関する過去記事です。この記事のように、政治や外交、経済など「硬い」ニュースを、社内では「硬派」と呼びます。硬派のニュース原稿は、一般に「逆三角形」で書きます（まとめ記事やコラムは別です）。

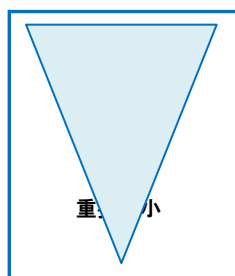
逆三角形とは「結論→説明→補足説明」という構成です。文章の前ほど重要な内容が記述されています＝右図。こうした原稿には、次のような利点があります。

① 忙しい読者が全文を読まなくてもポイントをつかめる

② 追加ニュースが入った際、後ろから削れる

右欄を見てください。逆三角形の新聞記事例は、後ろから削っていけば問題ありません。一方、時間順の原稿は最後に結論があるし、単純に前半を削れば意味が分からなくなります。

冒頭の文例に戻ると、「欧州中央銀が金利を下げた」という原稿の本論が最初であり、その後、利下げの補足説明や背景（世界の金利動向、欧州経済の現況）が続きます。掲載可能な分量次第で後ろから削っていけば大筋で間違いありません。



■ 逆三角形の構造

【新聞記事の例】

××議会は11日、欧州連合（EU）加盟に関する条約を賛成多数で批准した。（結論）これにより××側の加盟手続きが終了、同国は来年1月1日からのEU加盟が事実上確定した。（説明）EU拡大の中で来年1月からの新規加盟を見込んでいる4カ国のうち加盟を正式決定したのは××が初。××は先の6月の国民投票で3分の2以上の多数で支持された。（補足説明）

【同じ内容を時間順に書いた例】

欧州連合（EU）拡大のなかで来年1月からの新規加盟を見込んでいる4カ国のうち××は、先の6月の国民投票で3分の2以上の多数で加盟が支持された。その後、加盟手続きを終了させるために、××議会は11日、EU加盟に関する条約を賛成多数で批准した。この結果、××は来年1月1日からのEU加盟を、4カ国のうち初めて事実上確定させた。

【ロンドン〇山×太郎】欧州中央銀行（ECB）は2日、定例理事会を開き、ユーロ圏16カ国の最重要政策金利を現行の年1・5％から0・25％引き下げ、年1・25％とすることを決めた。3月にも利下げしており、1999年の欧州単一通貨「ユーロ」導入以来、2カ月連続で過去最低の金利水準を更新した。

トリシェ総裁は利下げの理由に「インフレ圧力の低下と非常に弱い経済活動」を挙げた。同時に次回の定例理事会で資金供給の拡大策を決め、措置の詳細を公表する考えを示した。↓も示した。

ECBは、金融危機が深刻化した昨年10月から利下げを開始し、今回で6回目。日銀は政策金利を年0・1％に引き下げ、米連邦準備制度理事会（FRB）は事実上のゼロ金利政策に移行しており、危機克服に不可欠な世界的な超低金利政策の流れが一段と強まった。↓いる。

ユーロ圏では、景気の急速な悪化を受け、2月の失業率は前年同月比で1・3ポイント上昇の8・5％に悪化。一方、3月の消費者物価上昇率は前年同月比で0・6％と半導体以来最低の水準に落ち込み、利下げの環境が整っていた。

■ 細かな調整は「修飾語」を削る

細かな行数調整は、別のテクニックが必要です。副詞や形容詞などの修飾語や、「そして」などの接続詞を削るのです。

冒頭の例で示すと、第2段落では「利下げの理由について」を削っても意味は通じます＝上欄参照。以下も同様ですが、補足すると、第2段落の「同時に」を削るなら、段落末の「考えを示した」を「考えも示した」に変えた方が通じやすくなります。第3段落は、6行目「移行しており」を「いる」に変えれば、以下2行も削れます。

このように、硬派は削りが規則的です＝右欄参照。でも……。

■ 「軟派」の削りは細部に注意

社会面やスポーツ面など「軟派」と呼ばれる分野は、一筋縄ではいきません。もちろん新聞記事である以上、街の話題やコラムなどを除いたニュース原稿（事件、事故やスポーツ結果）は、逆三角形で書かれています。前から要点が書いてある構成は同じです。

下記の文例（創作です）は、最初に「母子3人死亡」と「夫逮捕」というポイントが書かれています。以下、署の発表による事件の動機、捜査関係者から得た容疑者の様子、そして近所の人から聞いた家族像と続いています。スペースに限りがある時は、先の利下げの記事同様、後ろから順に削っていけばよさそうですが……。

この原稿（もちろん、現実こんな事件が起きないことを心から願いますが）の場合、末尾の「翌日が次女の入学式」が悲劇のポイント、いわゆる「見出しどころ」です＝右欄参照。ここは削れません。

神は細部に宿る。記事は、最後まで読み込む必要があるのです。

■ 削りの極限が見出し

下記は英金利に関する記事で、やはり逆三角形です。最初に「金利据え置き」というポイントがあり、以下は背景です。

新幹線の電光ニュースなど字数限定の場合、まず第2段落を落とします。第1段落も修飾語を削ると、矢印下の文になります。

これは見出しそのもの。原稿を極限まで削るのは、見出しを考えるのと同じです。

【ロンドン〇山×太郎】イングランド銀行（英中央銀行）は10日の金融政策委員会で、最重要政策金利を現行の年5％に据え置くことを決めた。据え置きは3カ月連続。

英国では住宅価格の下落など景気鈍化が顕著。一方で、5月の消費者物価上昇率が3.3％と金融政策の目標であるインフレ目標値（年2％）を大幅に上回り、インフレ圧力が高まっており、対応に苦慮しそうだ。

↓

イングランド銀行は、金利を5％に据え置くことを決めた。

見出し 英金利、5％据え置き

妻と娘2人を刺殺容疑

夫を逮捕 次女の入学式前夜

5日午後7時ごろ、××市△△3の住宅から女性の声で「助けて」と110番通報があった。××署員が駆けつけると、住人の主婦、山田春江さん（46）と長女夏子さん（12）、次女秋子さん（6）とみられる3人が刺殺されて倒れており、病院に運ばれたが死亡した。近くに、春江さんの夫の会社員、冬男容疑者（47）が包丁を持って立っており、「3人を刺した」と認めたため、同署は殺人容疑で緊急逮捕した。

同署の発表によると、冬男容疑者はかけまじジャンにのめり込んで失業。現在は休職中といい、「仕事のことを言われて、かっとなつた」と話しているという。

捜査関係者によると、調べには淡々とした様子で応じ、素直に供述している。2人の娘に話が及ぶと、「かわいそうなことをした」と涙ぐんだという。

近所の主婦（67）は、「お父さんはまじめそうな人。お母さんも慎ましい人だった」と話した。近所の男性会社員（37）は「6日に次女の入学式があり、両親そろって出席すると聞いていた。幸せそうだったのに」と驚いていた。